第110回日本消化器内視鏡学会北陸支部例会

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2018-03-26 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 源, 利成, Minamoto, Toshinari メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/00050417

『学会開催報告』

第110回日本消化器内視鏡学会北陸支部例会

The 110th Hokuriku Branch Meeting of the Japan Gastroenterological Endoscopy Society

第110回日本消化器内視鏡学会北陸支部例会　会長
（金沢大学がん進展制御研究所）
源　　利　　成

予期せぬ冬型の気圧配置にともない風雨が強まるなか，第110回日本消化器内視鏡学会北陸支部例会を2017（平成29）年11月19日（日）に石川県地場産業振興センター新館で開催しました．本支部例会は地方会とはいえ，北陸地域の消化器内視鏡学の実践と研究のコアとなる学術集会です．荒天にもかかわらず，北陸3県から延べ271名の消化器内視鏡医・研究者が参集しました．私自身，20年来続けてきた消化器外科の手術執刀を終えたのは9年前であり，同時期より当研究所臨床部門の専攻は消化器疾患ではなくなりました．それでも，消化器がんの研究と消化器疾患の診療を少しずつすすめてきたことが認められたためか，米島 學支部長から本支部例会を担当するようにお声がけいただきました．私のいまの立場を考えるとありがたいことであり，支部役員や会員の皆さんに支えていただいて，何とか務めることができました．

本支部例会の主題は「消化管表在がんの浸潤と転移：内視鏡診断と治療の現況」としました．自身が消化器内視鏡診療の修練を始めたころからの関心事であり，内視鏡および周辺機器が目覚ましく発展し，診療技術が飛躍的に向上している今日の重要課題と位置づけられます．北陸の第一線で活躍している3名の新進気鋭の演者が，それぞれ食道，胃および大腸表在がんについて診療と研究の成果を発表しました．これを受けて，この領域とくに大腸表在がんでは本邦の第一人者である田中信治教授（広島大学医歯薬保健学研究科 消化器内視鏡学）が臓器の枠を超え，また各臓器の特性を勘案して基調講演し，最新の知見を交えてこの主題セッションを総括しました．

これに続いて，加藤 愼弁護士（加藤法律事務所，横浜市）が「消化器内視鏡治療に関わる医療事故の現況」について教育講演しました．医療事故全般に共通する事項の解説とともに内視鏡診療に直結する内容をお話しされました．内視鏡診断と治療の守備範囲が広範になるにつれて事故のリスクが高まるなか，内視鏡医療の委縮に繋がりかねない課題であり，支部会員には得るものが大きかったようです．この後のランチョンセミナー（共催：株式会社ツムラ）では，河合 隆教授（東京医科大学臨床医学系内科 消化器内視鏡分野，日本消化器内視鏡学会関東支部長）が「消化管内視鏡検診の現状」について最新の知見と今後の見通しについてご講演されました．午前からのタイトな予定にもかかわらず，午後の最初のプログラムは田尻久雄教授（日本消化器内視鏡学会理事長，東京慈恵会医科大学先進内視鏡治療研究講座）が「消化器内視鏡学研究と診療の展望」と題して育成講演されました．消化器内視鏡学の最先端について周辺事情を交えた俯瞰的なご講演であり，田尻先生は我々参加者を大いにエンカレッジしてくださいました．

支部例会の主目的である一般演題は22名の支部会員が，研修医演題は15名の初期・後期研修医が上部・下部消化管や胆膵など広範な課題について研究発表しました．そして，夕刻まで活発な討論が続きました．このように本支部例会は支部会員にとって秋らしい実り多い学術集会になったと確信しています．稿を終えるにあたり，支部会員の皆さまのご活躍を願っています．